

センターだより

第74号

令和5年12月1日 発行

Aomori Prefectural School Education Center
青森県総合学校教育センター
〒030-0123 青森市大字大矢沢字野田80-2
☎017-764-1997 FAX017-728-6351

「あおもり教育研究発表会2023」の様子

10月27日(金)に「あおもり教育研究発表会2023～未来につなぐ青森の教育～」が行われました。

当日の参加・オンデマンドあわせ121名の方から申込みがあり、盛大に開催することができました。講師、御来場の皆様、誠にありがとうございました。



【センター研究発表】

センター研究発表では、「学校におけるICTの効果的な利活用」という全体テーマのもと、8つの研究グループが発表を行いました。今後も研究成果を随時Webページに掲載していく予定です。

- ◆国語グループ ◆社会、地理歴史、公民グループ ◆算数、数学グループ ◆理科グループ
- ◆外国語グループ ◆音楽、図画工作、美術グループ ◆体育、保健体育グループ ◆特別支援グループ

【研究員研究発表】

研究員発表では、8名の2年目研究員が発表を行い、教科指導や生徒指導、ICT等に関する研究の成果が示されました。メモを取りながら熱心に発表を聞いていらっしゃる方もたくさんおり、活発な質疑応答へとつながりました。

- ①ストレスや困難に負けないしなやかな心の強さを育成するための指導の研究
－児童のレジリエンスを高める教育プログラムの作成・実践を通して－ (教育相談課 研究員 工藤 美玲)
- ②中学校数学科におけるUDLガイドラインに基づいた授業実践の有効性に関する研究
－生徒の学習意欲の変容に着目して－ (特別支援教育課 研究員 渡辺 一真)
- ③中学校英語科において、自分の考えや気持ちを正確に書く力を高める指導法の研究
－ピア・フィードバックを取り入れた協働的な書く活動を通して－ (義務教育課 研究員 太田 晴佳)
- ④児童が安心して思いや考えを表現できる学級を目指した指導の研究
－学級の心理的安全性を高める教育プログラムの作成と実践を通して－ (教育相談課 研究員 長尾 恵利)
- ⑤中学校における情報活用能力の組織的な向上を図る支援プログラムの開発と実践
(産業教育課 研究員 福士 智也)
- ⑥小学校算数科「データの活用」領域において数学的に表現し伝え合う力を高める指導法の研究
－日常の事象に生かす活動につなげる授業実践を通して－ (義務教育課 研究員 渡邊 美咲)
- ⑦中学生が自他の多様性を理解・受容する力を育む指導の在り方
－価値観の違いや自他の個性を尊重するプログラム活動を通して－ (教育相談課 研究員 相澤 知佳)
- ⑧中学校国語科「文学的な文章」の指導において、考えの形成を図る指導法の研究
－比較の視点を生かした対話的な学習による授業実践を通して－ (義務教育課 研究員 沖田 勇樹)



【講演会】

今年度は「一人ひとりの子どもを主語にする学校をつくる」と題して独立行政法人教職員支援機構 理事長 荒瀬 克己 氏に御講義をいただきました。学習指導要領に込められた願いや中央教育審議会答申について、これまでの経緯を再確認することができました。また、学びを「子どもに委ねる」にあたっての現状や課題について協議することで今後の展望について思索することができました。

来場者からは「子どもにもっと委ねることができるよう、教師も自立した学習者にならなければならないと感じました」「子どもを主語にする学校の実現に向けてのヒントをたくさんいただきました」等の感想が寄せられました。



撮影：荒川 潤



センターセミナーの様子

I 不登校児童生徒への支援

FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男 氏

7月29日(土)に花輪敏男先生を講師に迎え、これまでの経験を踏まえ教師や家族の具体的な対応をまとめた「FR式不登校対応チャート」を中心に、「不登校児童生徒への支援」というテーマで御講演いただきました。

花輪先生が出会った数多くの不登校児童生徒や保護者教師との事例をもとに、子ども達の自立に向けて、周囲の大人はどのような支援を行えばよいのかを、具体的な言葉や行動で示唆していただきました。

【参加者の感想】

- ・不登校生徒の保護者ですが、花輪先生のお話は、実体験からとても納得できる内容で、きっと多くの不登校生徒を救えるのではないかと感じました。
- ・花輪先生のお話は何度か拝聴しておりますが、対応している不登校の子がそのたびに違うので、意識するポイントもそれぞれ違い、とても参考になりました。
- ・不登校児童の保護者面談直前でお話を聞いて、提案の参考になりました。



II もっと聞きたい 授業のユニバーサルデザイン Vol.1 ～あらためて「視覚化」を考える～

星槎大学大学院 教授 阿部 利彦 氏

8月19日(土)に阿部利彦先生を講師に迎え、「もっと聞きたい！授業のユニバーサルデザインVol.1～あらためて『視覚化』を考える～」というテーマで御講演いただきました。

講演を通して、授業のユニバーサルデザイン化の視点で、これまでの授業実践を振り返り、「視覚化」を意識した明日からの授業改善につなげるためのヒントをたくさん得られる時間となりました。アンケートでは、参加者から大変実践の参考になったという声が多く寄せられました。

【参加者の感想】

- ・「すべての答えは学び手にある」ということを改めて感じることができました。
- ・子供たちが大事なことに気づきやすくなったり、話したくなったりと、子供のワクワクやモヤモヤを生む視覚化を授業で取り組んでいきたいと思いました。
- ・様々な実践を聞いて、「視覚化」の工夫について自分なりの活用方法が分かりました。

